

わたしの
『感謝と友情』
ストーリー



「ありがとう」を、この街と。

ただただ感謝 神戸

愛知県 奥川 正朗

初フルマラソン、満身創痍、ハロハロになりながら角を曲がるとゴールの青いアーチが見えた。

嬉しかった。その刹那、60年の人生の中で最高の達成感に包まれた。

有難かった。沿道で懸命に応援して下さった神戸の皆様、一緒に練習してきたチームメイト、そして家族。

脚の痛みは完全に消えていた。全力疾走でゴールを駆け抜けた。涙が止まらなかった。

半世紀以上も前の話になる。舞子に暮らす祖母宅を年に数回だが、訪れることが幼い頃の何よりもの楽しみだった。

決まって、国鉄大阪駅を土曜日の夜の列車で発つ。芦屋を過ぎる頃から進行方向右手に山が迫り、夢の世界のような煌めく夜景が広がる。いよいよ須磨を過ぎると舞子まではもう少し、左手には真っ黒な海、コーヒーポットの様な灯台が垂水の印。至福のひと時であった。

神戸マラソンでの景色はまさに私の思い出そのものを辿る道。56歳でマラソンを始め、59歳でチャレンジできた。

コロナ禍での中断を挟んだが、昨年もチャレンジできた。今年も運よく機会を頂いた。63歳になった今、体力に少し不安も出てきたが、一年ぶりの夢世界、心よりの感謝を持って、今年も神戸を走りたい。

KOBE MARATHON
2023